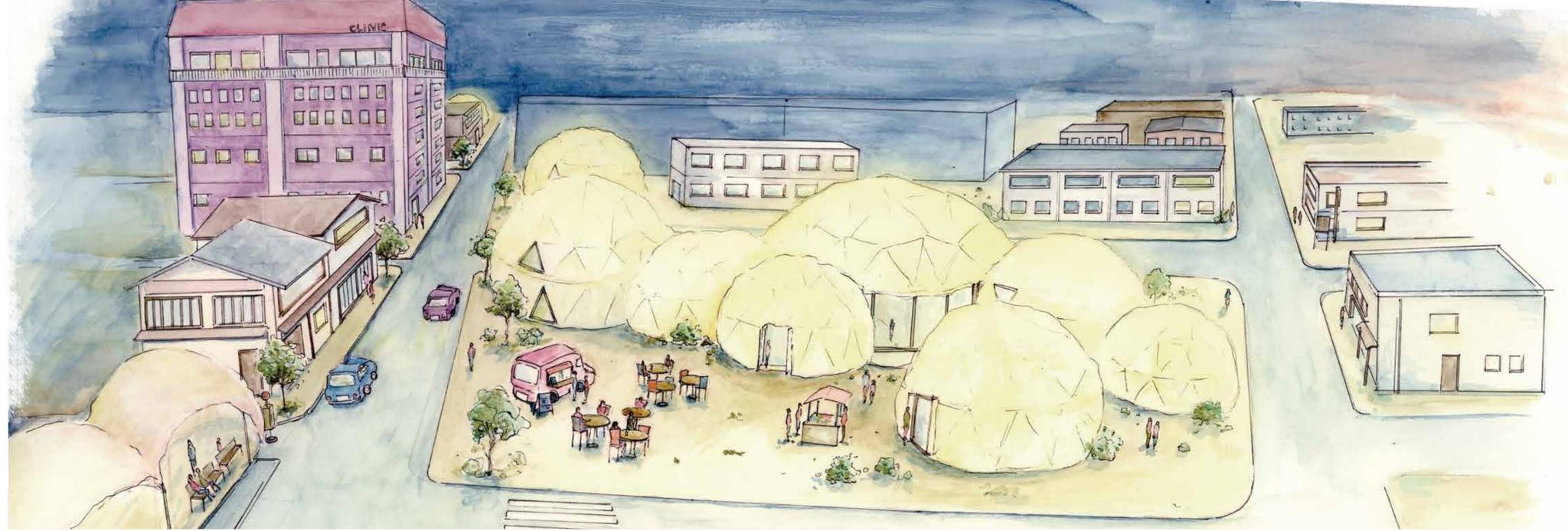


# 和紙を纏う



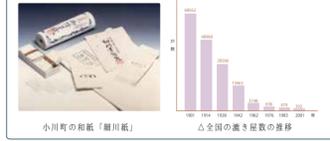
はるか1000年も昔から、和紙は利用されていた。  
和紙の生産地である埼玉県小川町では、今もその技術が受け継がれるだけでなく、和紙を纏く技術は進化している。  
— 伝統と産業。  
和紙を纏う事で感じる事ができるのではないが。

人が、建築が、街が、和紙を纏う。  
そんな和紙のふるさと小川町



## 地域はそれぞれ個性を持つ。

名産品も違えば歴史も違う。埼玉県比企郡小川町は昔から和紙産業が盛んであった。2014年にはその技術がユネスコの世界遺産にも登録された。しかし、そういった小川町のアイデンティティは街並みには表れず、多くの人は小川町を、そこが和紙のふるさとである事を知らない。また、小川町の受け継がれるべき文化である和紙漉き技術をもった和紙漉き屋は昔に比べ減少している。その理由として、後継者不足や和紙の需要の低下が挙げられる。  
こうした小川町の問題とは対照的に、世界では他にない優れた特徴をもつ素材である和紙の注目が高まっており、その技術を学びたい人は国内外に亘るはずである。

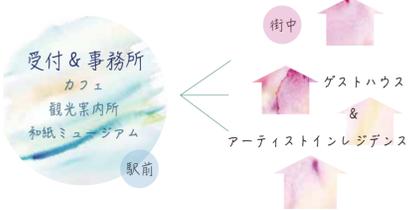


## 和紙の良さは手触りにある。

もちろん柔らかな光の透過や丈夫である事も大きな魅力だ。しかし、職人が手で漉いた和紙には技術とともに心がこもっている。それを直に肌で感じる事、目で感じる事、耳で感じる事で和紙の魅力を再認識してほしい。そして、建築という生活と密接に関わったものに和紙を使う事で和紙をもっと身近に感じてもらいたい。

## なんでも漉ける小川和紙

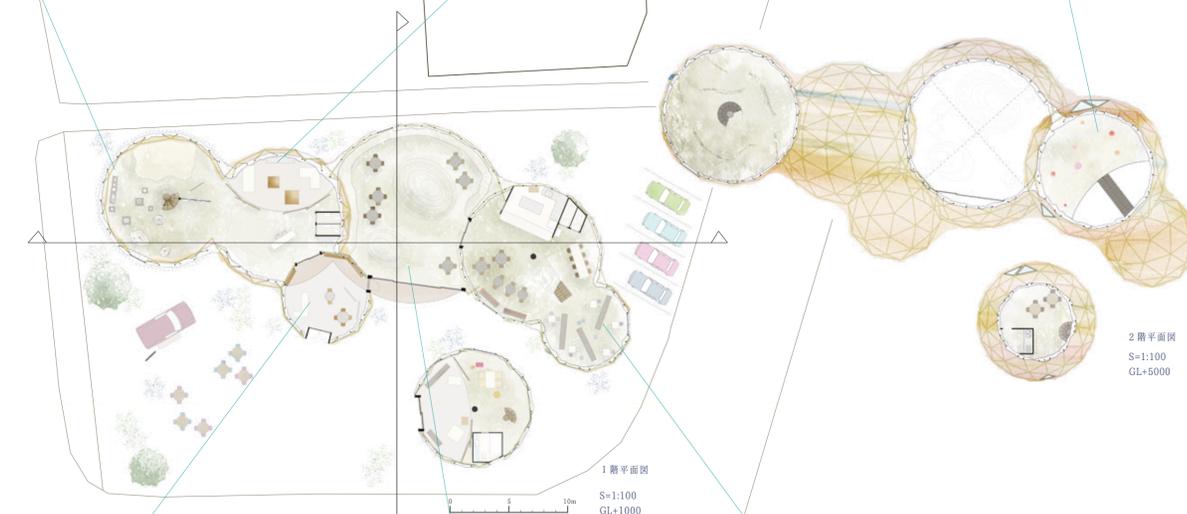
世界遺産に登録されたのは小川町を代表する和紙の「細川紙」。しかし、和紙の街としてのこの街の特徴はそれだけではない。「庶民の紙」であることを旨とし、様々な要求に懸命に応えようとするのが小川和紙の職人気質。全国の和紙を研究するなどたゆまぬ努力を続け、幅広い銘柄の紙を漉くことができるようになっていった。一つの産地でこれだけ幅広い紙を作れるところは他にない。安価で使い勝手の良い庶民の紙であること、小川和紙の特長である。



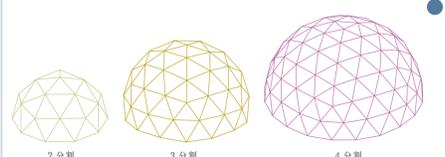
駅にコアがあり、街全体に和紙の灯りが広がっていく



昔ながらの漉き屋は年々減っていった技術を次世代に伝えたい。後継者不足の今、伝統を受け継ぐのは必ずしも漉き屋の子でなくても良いはずである。和紙について学びたい人や、和紙アーティストの人にその技術を受け継ぐ。様々な和紙を漉く技術に加え、和紙を使って新たな作品を作ったり、パフォーマンスをしたりする人の発想が加われば、和紙の新たな魅力や可能性が引き出されるのではないだろうか。

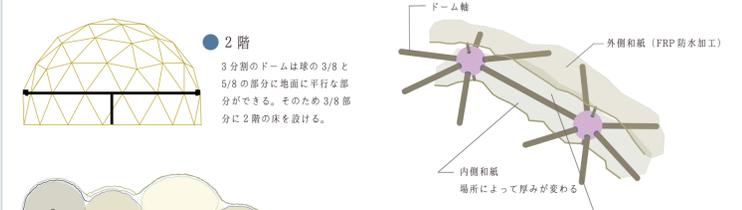


## かたち



●ジオデジックドーム  
とは、「最強の構造体である三角形から、球体構造をつくり上げる」というもの。正20面体の表面の正三角形の各辺を分割し、球体に近づけたドームをつくる。これは正三角形の辺の分割数が2・3・4の3種類のドームの組み合わせによって、建築がされている。このような形にする事で、柱があまり落ちず、自由な広い空間とする事ができる。

## 部分詳細



●2階  
3分割のドームは球の3/8と5/8の部分に地面に平行な部分ができる。そのため3/8部分に2階の床を設ける。

●和紙の厚さ  
1…広場・観光案内所（入り口）  
2…事務所・カフェ・ミュージアム入り口  
3…ブックカフェ・ミュージアム  
用途によって内側の和紙の厚さを変える。1が最も薄く、3は最も厚い。厚さを変える事で、中に入ってくる自然光の量も変わってくる。入り口や広場は自然光を多く取り込み、ミュージアムやカフェなどは照明で光を調節できるように自然光の量は少なくする。

●雲のようなスカイライン  
にすることで、外観で和紙の軽やかさを伝える。

## 和紙の家が街中に表れる



## 配置図 S=1:500



### 計画地

小川町の駅前を中心に計画する。駅前のバス停などに和紙の屋根をかけ、それと繋がるようにゲストハウスなどの受付を含む施設を設計する。さらにその通りの先いくつかのレジデンスを建てる。この通りは小川町の商店街であるが、現在は空き店舗も多く寂れてしまっている。しかし、毎年行なわれる七夕祭りの日は、和紙の七夕飾りで盛大に彩られ、屋台が並ぶ通りでもある。はじめはこの小川町の中心の通りから。だんだんと街全体に和紙が広がる。

七夕祭りの様子

### 駅前

現在の小川駅の駅前ロータリーはなにも交通モールがない。駅前の道を整理し、同時に駅前に和紙の屋根をかけ、雨の日でもタクシーやバスを待ったり、待ち合わせをしたりする場所となる。

#### タクシープールと乗り場

形は建物との繋がりや考え同じドームの連なり。和紙には防水加工をする。

#### バス停

### 入り口と観光案内所

スタッフがいて、観光情報のチラシや地図が置いてある。また、入場者が靴を脱ぐところ。

### 和紙広場

和紙の伝と天角、自然光が入り、隠れた日は窓が開放され、手洗場になる

### ブックカフェ

カフェと併設された図書空間。和紙の網、和紙がブックカフェに貼ってあるところなど。

